

やっぱり会高生だなあ… ::::

**意義深かった、卒業生(OG)講演会**

9月22日(金)開催の「卒業生による進路講演会」は、元々「OB講演会」と銘打って毎年開催されていました。コロナ禍で中断していましたが、今年ようやく再開。しかも初の「OG講演会」として。

講師の共学一期生、沖井尊子さんは生徒のみなさんと20歳ほどの年齢差。若く前向きな先輩の話は分かりやすく、みなさんの心をグッと引き寄せたようですね——

「大学(院)の6年間でやりたいことを全てやると言い切れているところがかっこいいと思った。」(同様各学年)

「私も大人になって良い時も悪い時も沖井さんの努力の証のSAPPOROのお酒を飲みたいと思います。」(同様各学年多数)

「まだ自分が本当に興味のあることは何なのかわからないため、いろいろなことにチャレンジして「ゼロからイチを創り出す」という経験をたくさん積みたいと思いました。」(各学年多数)

「まだ高校1年生で、大学に対して少し堅苦しいイメージがありました。楽しそうに話す沖井さんの姿を見てとても興味がわきました。」(1年男子)

「つい最近理系から文系に変更を決めたばかりだったので、沖井さんも似ている状況にあったことを聴き親近感がわきました。真逆とも言っているような変更をしているのだろうかを思っていました。『人生は紆余曲折』という言葉聞いて、その決断も悪くないのかもと考えなおすことができました。」(1年女子・同様3年女子)

「この先『これ一本で』という条件があると、どれもピンとこなくなってしまう。沖井さんの話を聴いて、自分のやりたいことが後になって少し変わってもいいんだなと思えて安心しました。」(1年女子)

「進んだ大学によって職業が決まってしまうことはないとわかりました。大学によって将来が決定することはないし、自分で変えられることに安心しました。」(2年女子)

「一番大きな刺激となったのは、『自分の言葉で伝える』ことです。今日の話聴いて、自分の本心を伝えてみたいという思いが湧いてきました。本心を口にすることで自分の目標を叶える。これがとても素敵なことだと感じました。」(1年女子)

「さまざまな経験を積むことで自分を知ることにつながり、世界が広がることでよい仲間とも出会えることを知りました。」(1年女子)

「成功の反対はやらないこと、後悔するのはやらないこと」という言葉が心に残りました。」(各学年多数)

「高校、大学、就職について興味をひかれる話が多く、楽しく勉強になりました。『適所適材』『人生は紆余曲折』『後悔するのはやらないこと』『ないものは創る』といったポイントのもと、たくさん挑戦していきたいと思いました。沖井さんのような『誰かに喜んでもらえる社会の一員』になれるよう、今から全力で取り組みたいと思います。」(同様各学年多数)

「まだどんな学部に行きたいのか、そんな働き方がしたいのか決まっていなため、自分の可能性を広げるような活動に積極的に参加し見聞を広げていきたい。」(1年女子)

「CMの変化についての話が印象的でした。まだ未成年で飲むことはできませんが、成人したらエビスのビールを飲んでみたい、と思える広告の仕方だと感じました。」(2年女子)

「TVCMの力を改めて感じました。世の中の傾向や人々の考えを取り込むことが重要なのだと気づき、何気なく見ているCMですが、何か影響を受けているのかもしれないと思いました。」(3年女子)

「家庭生活部に所属していますが、世界中の人々に幸せを届けている沖井さんは本当にかっこいいと思ったし、会津高校生としてとても誇りになる先輩です。」(家庭生活部員)

「自分はあまりいろいろなことに挑戦できていないし、勉強も部活も中途半端な状態になっていると思うので、沖井さんのような生き方ができるよう努力していこうと思った。」(各学年多数)

「全部頑張れそうです。やってみたいこと全て挑戦します！沖井さんのおかげで将来が楽しみになりました。」(2年男子)

「今の自分にとても刺さる内容の講演でした。」(2年女子)

「沖井さんは周囲の人々の助けが自分の道を突き進むために大切だと言っていました。本当のその通りだと思いました。私の周りにも頼れる仲間がたくさんいます。助けを求めるだけでなく、助けになれるように努力を続けていきたいです。」(3年男子)

「自分のしたい勉強を追求することができるように、まずは大学受験を成功させられるようにしようともう一度気

合が入りました。」(3年女子)

「就職面接の際に、本気で言っていることと何となく言っていることは面接官にも伝わるとおっしゃっていたのが印象に残りました。」(3年男子)

「社会の一員になる体験として、アルバイトを私も体験しようと思った。」(3年女子)

「講演会前は正直「めんどくさいなー」と思っていて、内職用の本も持ってきただけれど、気づいたら聞き入っていて見入ってて時間経ってました。こういうシーンでエビユーザーが増えるのかもなって気づきました。」(3年男子)

「私はいつも環境のせいにして努力することができないことが多いので、その場所でできる最大限のことをやろうと思いました。そして後悔の少ない人生にしたいです。」(3年女子)

「自分も企画・マーケティング・ビジネスに関わることが希望、そして京都の大学に進学したいのでとても参考になった。」(3年女子)

——会津高校生のマインドは、まだまだ衰えていませんでしたね～！受け継がれてますね～！うれしい限りです～！さあ、感じたら、即、行動に移そう！後悔しないように。

## 秋風とともに、受験期到来!!～勝負をモノにするために～

後期に入った。3年生は考査や模試の連続。目標実現に向けて加速度がグ～ンと増す時期だ。共通テストまで100日を切った。出願も済んでいる。ここで心配なのは、みんなの心理状態。**結果ばかりを求めて、クラスメートの気持ちもバラバラになりやすい。早期入試受験者が出てくると、焦りが出てなおさらだ。**そこで、例年、この時期の注意をアドバイスしておきたい。1・2年生も今後経験することなので、今から心がけておくことが必須！

### 弱気を打破！ ⇒ セルフマインドコントロール

「心の弱さ」は勝負事に関わる人間にとって致命傷。相撲取りが土俵に上がる前に「あいつ、デカイし強そう。負けるな…休みたい。」と怖じ気づいてたら、勝てる相手にも勝てない。

受験はライバルたちとの戦いであると同時に、自分自身との戦いでもある。部活動などにも同じことがあてはまる。にもかかわらず、相手と戦う前に自分の心の弱さを露呈してしまう。この時点で、すでに負けている。これまで、数多くの受験生がこれにやられてきた。

では、勝負事に臨むにあたって「心の弱さ」の対極にあるのは何だろう？答えはすぐ出ないかもしれない。——が、一つあげるとすれば「自信」だろう。「自信」がないから弱気になる。

### 「自信」は自然につくラッキー！ではない

勝つ自信、力を出し切る自信、そして周囲から認められる自信というのは、「空(から)元気」とは違う。よく本番前になると「ダイジョブ、ダイジョブ～」と自分や周囲に言い聞かせようとする、あるいは、不安を取り繕おうとする人がいるが、これは「空元気」の場合が多い。忘れてならないのは、本当の自信とは、目標達成にふさわしい方法(戦略・戦術)に基づいた継続的な努力があってこそ成り立つということだ。

本番(勝負)が近づくとつれ、まだ土俵にも上がらないのに、自信のないことが理由で白旗を揚げたり、結果が出ないことでやる気をなくしたり—それは本気で進路実現をめざす者のあり方ではない。結果や周囲の目ばかりを気にして、その前に必要な努力をおろそかにしているときに陥る心理状態だ。

「心の弱さ」を補うには——

### 「不断の努力」と「主体性」と「広い視野」

進路だより第1号に、学術の約束その1「自分のことばかり考えないこと」、その3「いつも前向きな気持ちでいること」がある。楽をして結果を求めめるのではなく、プラス思考で、今、自分にできることに全力で取り組む。そして、「進路を考えると、単に学力向上に励むだけでなく、世の中の現状を知り、社会に寄与するために必要な要素を意識し、自分にできる最大限の努力をすること。」

自信というのは、単に受験で結果を出すための要素ではない。勝負事である以上、いくらがんばっても負けることはある。しかし、たとえ受験に負けても、自信があればその後「**どんな生き方をするのか、したいのか**」という人生の目標達成のための土台になる。

物事を狭い視野でしか見られない者、目の前しか見えない者は、自信を失いやすい。進路だよりで何度も取り上げているように、「主体性」を持ち「グローバルな視点」で考えれば、必然的に努力せざるを得ないはずだ。そして、その努力が自信につながる。——不断(普段)の努力だ、会高生！